

006

地元建設会社がリードする地域の火山対策

- ✓ 過去の経験を踏まえた火山対応
- ✓ 地域に根差した活動を継続

取組主体	従業員数	想定災害	実施地域
渡辺建設株式会社	45 名	火山噴火	群馬県

群馬県嬬恋村の渡辺建設株式会社は、地元住民や関係機関と連携しつつ、浅間山の噴火に備えた地域づくりをリードしている。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

火山活動警報レベルが 3 以上で BCP を発動し、交通規制等初動対応を実施する予定

- 平成 16 年 9 月に浅間山が噴火した。この際、周辺地域では通信が混乱したことに加え、交通規制や避難誘導に遅れが生じ、火山灰に覆われた走行困難な道路に立ち入ってしまう車両が出るなど、課題が残る結果となった。また噴火に対する経験の乏しい別荘地の住民の中には、パニック状態に陥るケースも見られた。こうした状況を直に目にした同社では、地元企業として対策が必要だと考えていたところ、平成 19 年に国土交通省から建設会社のための事業継続ガイドラインが公表され、地域の建設会社が業務を確実に実施していくためにも必要な取組だとも考え、災害対応体制作りに着手した。



同社の災害時出動訓練の様子

- 同社の BCP は、気象庁による浅間山の活動警報レベルが 3 以上となった場合に発動される。代表を中心に災害対策本部が社内に立ち上がり、同社の近隣に住む職員が緊急要員として、初動対応にあたる体制が取られている。浅間山の噴火時には、まず交通規制を敷くために、浅間山の周辺の各建設会社が嬬恋村内の 13 箇所に通行止めの看板を設置することになっているが、同社ではこの作業の訓練を毎年実施しており、全看板を設置した上で、担当者が 2 時間以内に帰社することが可能な体制を準備している。またその状況は GPS 付き映像で本社パソコンに報告される仕組みとなっている。

2 取組の平時における利活用の状況

- 上記の社内訓練に加え、火山対策等防災活動には、地域の理解や協力が重要だと同社では考え、地域住民を巻き込んだ防災フェアを毎年実施し、救助訓練講習、AED 講習、前橋気象台を招いた天気講習、地震車体験試乗会、無料災害備蓄食品試食会等、多様な取組を実施している。



AED 講習会の様子



災害備蓄品試食会の様子

- 同社が主催する防災訓練や防災フェアを継続し、地域における防災への理解を育んでいく予定としている。

担当者の声



地域に密着し、活動が続けることが有事の際に重要

- 地域住民にとっては、火山は身近な存在であり、慣れがあるため、当初は当社の活動が理解されませんでした。しかし、長年の活動により、地域に必要な建設会社としての認知がなされるようになりました。
- サプライチェーンも整備し、燃料調達を関東圏と関西圏に分散させていました。これにより、東日本大震災の際も、関西方面から調達を行うことで、建設工事を継続させました。この経験で BCP の有効性を実感しました。

問合せ先

渡辺建設株式会社 法人番号: 3070001024022
TEL 0279-97-2511 FAX 0279-97-3328 E-Mail ishihara@tsumagoi-watanabe.co.jp